

2015 年度活動報告 交換授業：レギュラー2-1（会話・漢字）

牛窪 隆太（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

初級後半の学生 3 名を対象に、週に 1 コマ（90 分）開講された。授業開講時から、コースの学習内容が自分のレベルに合わないという学生がおり、また少人数クラスであったことから、通常のコース内容を変更して対応することになった。文法クラスで教科書の扱いを変更したため、会話・漢字クラスにおいても同様の変更と工夫を行った。漢字については、『日本語初級大地②』の 23 課から 32 課をもとにしたオリジナル教材をあらかじめ配布し、各回に前回のクイズと新出漢字の導入を行った。

2. 授業内容

授業で扱った学習項目は以下の通り。①前回の導入漢字についてのクイズ（負担を考え、初回は選択式のものを使用したが、様子を見て通常のものに移行）、②新出漢字の導入、書き方、語彙の学習、③文法クラスで作成したエッセイの音読練習、教室でのシェア活動、④ディクトコンボ（2 回）。エッセイのシェア活動は 3 名のグループで実施していたが、途中からスピーチ形式に変更し、話す活動として位置づけた。スピーチ形式で行った回に授業見学者が参与することもあり、よりフォーマルな場で話す活動も盛り込むことができた。「ディクトコンボ」では、初中級程度の聴解教材を用いて、聞き取りと内容確認からの文作成活動を行った（活動内容については、参考文献参照のこと）。

3. 成果と今後の課題

学期の途中からではあるが、漢字を使った語彙をより多く紹介してほしいという声にこたえて、漢字語彙と使い方の練習を取り入れたため、漢字学習についての評価は高かった。また、3 名と少人数であったため、学生たちの日本語学習上の質問に答える時間ももつことができた。一方で、カリキュラム内容の満足度について、どちらともいえないという意見があることから、もう少し学生自身の活動を中心に据えたクラス運営を考えてもよかったかもしれない。

参考文献

本郷智子他（1996）「ディクトコンボ：統合的学習活動の試み(1)」、『日本語教育方法研究会誌 3(1)』，pp. 4-5